

「伝統文化の継承が危ぶまれる“稲武シルク”を守りたい！」という想いを胸に・・・

稲武地区養蚕・製糸文化伝承事業実行委員会（以下、実行委員会）は、豊田市地域振興部稲武支所の協力により、日本を代表するパティシエでショコラティエの辻口博啓（つじぐちひろのぶ）氏とのコラボレーションによって開発した「いなぶシルクチョコレート」の試食会を、以下の通り開催します。

稲武地区は、古来より伊勢神宮への絹糸の献納、天皇の代替わりの時に行われる大嘗祭への絹織物の調進という唯一無二の文化を担ってきましたが、現在は、地区の養蚕農家が途絶え地域の有志が支えているという状態であり、担い手の育成が急務となっています。今回の「いなぶシルクチョコレート」の開発は、カイコが持つ多様なチカラを受け止め、地域の新たな産業創出への突破口として実行委員会が発案した企画の第一弾でもあります。趣旨ご賢察のうえ、取材方、何卒よろしくお願いいたします。

- 会場 道の駅どんぐりの里いなぶ イベント広場
- 日時 令和5年11月17日（金） 10時～11時
- 内容 先着100名様を対象とした「いなぶシルクチョコレート」の試食会
 - ①いなぶシルクチョコレート・プレゼンテーショントーク（10時～10時30分）
[登壇者]
辻口博啓氏（パティシエ）、太田稔彦豊田市長、犬飼奈津子氏（進行役）
 - ②試食＆アンケート（10時30分～11時）
 - ③太田市長＆辻口氏の囲み取材（10時30分～11時）

人・地球・地域を健やかに～蚕のチカラは、未来を変える！

「繊維」はもちろん、「食」「医薬品」「美容」など用途は幅広い！

かつて手術の際、縫合糸がシルクだったことからわかるように、シルクは人体との親和性が非常に高い素材です。現在、食品や医薬品等の素材としてシルクが使われているのは、こうした人体への安全性に由来するものです。

シルクは、人と環境に優しいスーパーフード！

絹糸の主成分であるシルクフィブロインは人間の肌を構成するグリシン、アラニン、セリンといったアミノ酸（タンパク質の構成要素）が集まってできています。フィブロインを分解していくとアミノ酸のパウダーに加工でき、溶液やゲルなどにすることでさまざまな食品に活用できます。食べると美味しく、みりんのような味を感じます。

シルクパウダーは、タンパク質はもちろんビタミンやミネラルなども含まれている栄養食品であり、中性脂肪値、血糖値、コレステロールの低下作用などの機能が報告されています。（東京農業大学 長島孝行農学博士による）また、牛や豚などの家畜よりも環境負荷が小さいことから代替タンパク質としての期待も高まっています。

存続の危機が危ぶまれる日本トップクラスの養蚕・製糸文化



だいじょうさい にぎたえ

大嘗祭の繪服調進

天皇陛下が御即位された後、最初に行われる新嘗祭（いになめさい）を特別に大嘗祭（だいじょうさい）と呼び、皇位継承に際して行う最も重要な祭祀とされています。

その際、繪服（にぎたえ）という絹織物が供えられますが、平安期の書物には、繪服は三河の国から調進すると記載されています。その歴史を受け継ぎ、現在も稲武から繪服（にぎたえ）という絹織物を調進しています。

稲武の養蚕農家は遂に0軒！このままでは伝統文化の継承も困難に！

最盛期には400軒近くあった稲武地区の養蚕農家ですが、昭和中期以降は減少の一途をたどり、今は0軒になってしまいました。こうした状況下で、伊勢神宮献糸をはじめとする稲武の伝統文化は、有志団体「いなぶまゆっこクラブ」（古橋幹雄 代表）が桑畑の整備、蚕の飼育、糸取りなどを手作業で行い、一般財団法人古橋会がバックアップすることによって守られています。団体メンバーの高齢化などもあり将来にわたる文化継承は困難となっています。

地域の大切な文化をみんなの手で守りつないでいくため、実行委員会を設立

稲武地区養蚕・製糸文化伝承事業実行委員会を突破口に！

本実行委員会は、稲武地区の伝統である養蚕文化の普及や振興、また、後継者の育成や新たな人材の発掘等の事業を行うことにより、養蚕・製糸文化を将来にわたって伝承し、さらには、新たな産業の芽を育て地域の活性化へつなげていくことを目的に、令和2年に設立。令和3年度～4年度にかけ、稲武KAIKO学という勉強会を実施し、目的達成に向けた糸口の発見に努めてきました。



登壇者 紹介

辻口博啓（つじぐちひろのぶ）氏

クープ・デュ・モンドなどの洋菓子の世界大会に日本代表として出場し、数々の優勝経験を持つパティシエ、ショコラティエ。現在は**オーナーパティシエ・ショコラティエ**として、**モンサンクレール**（東京・自由が丘）をはじめ、コンセプトの異なるブランドを多数展開。2014年には初の海外店舗「**モンサンクレール ソウル**」をオープン。

今もなおコンクールに挑戦しており、**サロン・デュ・ショコラ・パリ**で発表されるClub des Croqueurs de Chocolat（クラブ デ クロケールド ショコラ＝ショコラ愛好家の会）による**ショコラ品評会**では、2013年～2018年の6年連続で**最高評価**を獲得。25周年記念イヤーの2019年は、Club des Croqueurs de Chocolatが出会った最高のショコラティエベスト オブ ベスト アワードを受賞した。2015年には「**インターナショナルチョコレートアワーズ世界大会**」のチョコレートバー部門で**金賞**を受賞。スイーツを通じた**地域振興**、企業とのコラボレーションやプロデュース、講演や著書出版など積極的に活動する他、低糖質スイーツの第一人者として数々の**ロカボスイーツ**の開発・監修に取り組む。

また、スーパースイーツ製菓専門学校（石川県）の校長、**一般社団法人日本スイーツ協会**の代表理事を務め、後進育成やスイーツ文化の発展に取り組む。日本スイーツ協会では、「**スイーツコンシェルジュ検定**」を実施する他、お菓子作りを通して人を育てる「**スイーツ育**」を提唱。2015年にはNHK朝の**連続テレビ小説「まれ**」の製菓指導を務める。2019年1月には自身のチョコレートのクリエイティブを追いかけたドキュメンタリー映画「**LE CHOCOLAT DE H**」が公開。第45回シアトル国際映画祭（2019年5月16日～6月9日）にて正式上映された。



スーパースイーツ製菓専門学校 校長
一般社団法人日本スイーツ協会 代表理事
金沢大学非常勤講師
産業能率大学客員教授
LOVEあいちサポーターズ「あいちスイーツ大使」
Food Master Japan 主宰
かなざわ食マネジメント専門職大学教授
(2023年就任)

登壇者 紹介

太田稔彦（おおたとしひこ）豊田市長

1954年4月30日愛知県豊田市生まれ。早稲田大学商学部 卒業。
1977年4月1日 豊田市採用
2002年4月1日 豊田市行政経営課長
2009年4月1日 豊田市経営政策本部長
2011年4月1日 豊田市総合企画部長
2012年2月19日 豊田市長 就任
2014年6月4日 東海市長会会長、愛知県市長会会長 就任（～2015年6月10日）
2015年6月10日 全国市長会副会長 就任（～2016年6月8日）
2016年2月19日 豊田市長 再任（2期目）
2016年5月25日 中核市市長会副会長 就任（～2019年5月28日）
2017年4月1日 地方分権改革有識者会議議員 就任（～2019年6月13日）
2017年6月7日 愛知県市長会副会長 就任（～2018年6月5日）
2019年5月29日 中核市市長会会長 就任（～2021年5月16日）
2020年2月19日 豊田市長 再任（3期目）
2022年6月1日 東海市長会・愛知県市長会会長 就任
2023年6月7日 全国市長会 副会長 就任



犬飼奈津子（いぬかいなつこ）氏

名古屋駅直結の百貨店「ジェイアール名古屋タカシマヤ」で15年広報を担当。『日本一露出する百貨店』を目標に、着任当時年間100件程度だったテレビ取材を500件近くへと導く。バレンタイン催事「アムール・デュ・ショコラ」では、多数のメディア露出により30億円の売上に貢献。自身も多数のメディアに出演し、情報番組出演時に「押しが強すぎると業界で話題」とテロップを出されるほどに。社外広報・社内広報に加え、地域ブランディング、女性活躍推進に向けた取り組みにも力を入れる。

- ・取材対応実績1万件以上
- ・広報講座等の講師実績100社以上

『広報PRの力で、人や企業のステージを上げたい』との思いから2023年に独立起業。

